用語解説

あ行

アイドリングストップ

自動車やオートバイが駐停車中にエンジンを停止すること。燃料節約と排気ガスや騒音の削減などの効果がある。

アスベスト（石綿）

石綿は、昭和 30 年頃から使われ始め、安価で耐火性、耐熱性、防音性などを有する建築材料として、様々な建築物等に広く利用されてきた。しかし、ばく露後数十年を経て発症する中皮腫や肺がんの発症等の健康影響が社会問題となり、石綿使用製品の製造は順次禁止され、平成 18 年 9 月 1 日以降は 0.1％を超える石綿の使用が全面禁止されている。

法令では、解体、改造、補修の工事（以下解体等工事）を行う際には必ず石綿の事前調査をしなければならず、一定規模以上の解体等工事を行なう場合には都道府県知事（特別区の場合は区長）へ事前調査の結果を報告しなければならない。また、吹付け石綿、石綿を含有する断熱材、保温材および耐火被覆材が使用されている建築物等の解体等工事を行う際には、作業の方法等について都道府県知事（特別区の場合は区長）へ届け出なければならない。

いきものログ

環境省をはじめとする国の機関・都道府県・市区町村・研究機関・専門家・市民等が、それぞれ管理する生物多様性データを一元的に登録、共有することができるシステム。生きものの情報を収集・提供するインターネット上のシステムのこと。

エコアクション 21

事業者の環境への取組みを促進するとともに、その取組みを効果的・効率的に実施するため、環境省が策定した環境マネジメントシステムである。

温室効果ガス

大気を構成する成分のうち、温室効果をもたらすもの。主に二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロン類がある。

か行

家庭用燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム）

都市ガスを利用して、家庭で電気とお湯を同時に作り出すシステムのこと。エネファームともいう。エネルギー利用効率が高く、CO_2 削減に効果がある。

環境基準

人の健康を保護し、生活環境を良好に保つため、維持されることが望ましい基準。人の健康等を維持するための最低限度としての基準ではなく、より積極的に維持されることが望ましい基準であり、行政上の政策目標である。大気汚染、水質汚濁（地下水を含む）、土壌汚染、騒音、ダイオキシン類について定められている。

カーボン・オフセット

自らの日常生活や企業活動等による温室効果ガス排出量のうち削減が困難な量の全部又は一部を、ほかの場所で実現した温室効果ガスの排出削減や森林の吸収等をもって埋め合わせる方法。

環境確保条例（正式名称：都民の健康と安全を確保する環境に関する条例）

昭和 44 年に制定された東京都公害防止条例は、工場等による公害の未然防止の観点から立地の制限や規制基準の遵守などを定めた総合的な認可制度を柱とする条例であった。その後、自動車公害対策や化学物質対策、土壌汚染対策、地球温暖化対策などに対応するため、平成 12 年にこれらの規定を盛り込んだ環境確保条例に全面改正された。幅広く環境保全上の支障を防止するため、都民の健康や安全な生活環境の確保、次世代への良好な環境の継承を図ることも目標としている。

間伐

森林の混み具合に応じて、樹木の一部を伐採し、残った木の成長を促す作業。間伐を行うと、光が地表に届くようになり、下層植生の発達が促進され、森林の持つ水源涵養機能、土砂災害防止機能、生物多様性保全機能などが増進する。また、残った木の成長が促されることにより、木材としての価値が高まる。

クーリングシェルター

指定暑熱避難施設ともいい、改正気候変動適応法により新設された。危険な暑さから避難できる場所として市町村長が指定した施設であり、熱中症特別警戒アラートの発表期間中、一般に開放される。

クール・チョイス (COOL CHOICE)

CO_2 などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択（＝クールなチョイス)」をしていこうという、環境省が推進する国民運動。現在は「デコ活」に包含。

高圧電力（低圧電力）

契約容量が 50kW 以上で、工場や大型商業施設、病院など、規模が大きく電気の使用量が多い施設の電力を高圧電力という。これに対して、契約容量が 50kW 未満で、小規模事業所や一般家庭など、電気の使用量が比較的少ない施設の電力を低圧電力という。

光化学オキシダント

大気中の窒素酸化物と VOC（揮発性有機化合物）が太陽の紫外線を受けて光化学反応を起こし、生成する二次的汚染物質の総称。

光化学スモッグ

特に夏季の日中に光化学オキシダントやエアロゾルが空中に停留して高濃度になり、遠くがかすんで見えるようになる現象で、目や喉に刺激があり、「目がチカチカする」、「喉が痛い」などの症状が出る場合がある。光化学オキシダントの濃度が 0.12ppm 以上で継続するとき、東京都は光化学スモッグ注意報を発令する。

小型家電

デジタルカメラやゲーム機等の小型電子機器等のこと。

さ行

再生可能エネルギー

太陽光や太陽熱、風力、水力、地熱、バイオマスなど、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのこと。石油、石炭などの化石燃料と異なり、発電時や熱利用時に二酸化炭素をほとんど排出しない。

資源化率

廃棄物（ごみ量と資源回収量の合計）に対する資源回収量の割合。
資源化率＝資源回収量／（ごみ量＋資源回収量）

住宅用エネルギー管理システム（ＨＥＭＳ）

HEMS とは、Home Energy Management System の略。家庭内のエネルギー管理をするためのシステムのこと。電力使用量の見える化、家電機器の制御等を行うことにより電力の使用を効率化でき、節電や CO_2 削減に効果がある。

ジュール（J）

エネルギー、仕事、熱量、電力量の単位。

省エネ・非化石転換法
（エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律）

石油危機を契機として昭和５４年に制定され、一定規模以上の事業者に省エネ取組の見直しや計画の策定等を促す法律のこと。制定以降、急激な経済成長やビジネスモデルの変化に応じて改正を繰り返し、令和４年度には化石エネルギーだけでなく非化石エネルギーも含めたすべてのエネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換を求めるとともに、電気の需要の最適化を促す法律に改正された。

省エネルギー診断

主に事業所を対象として、既存のエネルギー稼動状況などを専門の技術士等が確認し、診断するもの。診断結果には、今後の省エネルギー設備改修の方策が記載されている。専門の技術士が照明の LED 化等省エネルギー対策の提案をするため、有効な省エネ対策が期待できるほか、投資回収の観点の提案もされることがある。

食品ロス

本来食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。

3R

Reduce（リデュース）～ごみになるものを減らす、Reuse（リユース）～繰り返し使う、Recycle（リサイクル）～もう一度資源として生かす、というごみを減らすための３つの取組みの頭文字。

生物多様性

地球上のすべての生きものは一つひとつに個性があり、互いに直接的、間接的に支えあって生きている。このような生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。

た行

大気汚染防止法

大気汚染に関して、国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全することなどを目的とした法律。固定発生源（工場や事業場）から排出又は飛散する大気汚染物質について、物質の種類ごと、施設の種類・規模ごとに排出基準等が定められている。また、アスベストについて、解体等工事の際の作業基準や事前調査、届出等の規定が設けられており、令和２年の法改正によりアスベスト関連の規定が強化された。

ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン（ＰＣＤＤ）、ポリ塩化ジベンゾフラン（ＰＣＤＦ）、及びコプラナーＰＣＢ（Ｃｏ－ＰＣＢ）を総称して「ダイオキシン類」という。ものを燃やす過程などで自然に生成する物質で、通常は無色の固体で、水に溶けにくく、蒸発しにくい半面、脂肪等に溶けやすい性質を持つ。国では、耐容１日摂取量（長期にわたり体内に取り込むことにより健康影響が懸念される化学物質について、その量までは人が一生涯摂取しても健康に対する有害な影響が現れないと判断される１日体重１kg当たりの摂取量）を４pg-TEQ と設定している。

断熱等性能等級

「住宅性能表示制度」の評価分野の一つで、外皮（外壁、窓など）の断熱性能、冷房期に日射を遮蔽する対策など、住宅外皮の省エネ性能と、結露の発生を抑制するための対策について評価するもの。等級４は、「熱損失等の大きな削減のための対策（建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（平成 28 年経済産業省令・国土交通省令第１号）に定める建築物エネルギー消費性能基準に相当する程度）が講じられている」状態のこと。

地域冷暖房システム

一定地域内の建物群に熱供給設備（地域冷暖房プラント）から冷水･温水･蒸気などを地域導管を通して供給し、冷房・暖房・給湯などを行うシステム。

デコ活

二酸化炭素 (CO_2) を減らす (DE) 脱炭素 (Decarbonization) と、環境に良いエコ (Eco) を含む " デコ " と活動・生活を組み合わせた新しい言葉。脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動。

電気自動車

バッテリーに蓄えた電気をモーターに供給して走行する自動車。走行時に大気汚染物質を全く出さず、走行に伴う騒音も大幅に低減される。

東京都建築物環境計画書制度

東京都において、延床面積 5 千㎡を超える、新築・増築をする際に、環境配慮の取組みを示した届出を計画時・完了時に提出することが義務付けられている制度。エネルギーの使用合理化、資源の適正利用、自然環境の保全、ヒートアイランド現象の緩和などの取組みレベルを 3 段階で評価する。

は行

ハイブリッド車

ガソリンエンジンと電気（モーター）、ディーゼルエンジンと電気（モーター）という組み合わせで二つ以上の動力源を複合したシステムを持つ自動車。動力源の配置によって複数の方式に分かれるが、一般的なのはエンジンとモーターを組み合わせたパラレル型ハイブリッド車である。地球温暖化の原因となる温室効果ガス（CO_2）の排出量が少なくエコロジーカーとされている。

ヒートアイランド

都市域において、人工物の増加、地表面のコンクリートやアスファルトによる被覆の増加、それに伴う自然的な土地の被覆の減少、さらに冷暖房などの人工排熱の増加により、地表面の熱収支バランスが変化し、都心域の気温が郊外に比べて高くなる現象。

ビオトープ

特定の生物群集が生存できる環境条件をそなえた地理的な最小単位のこと。ギリシア語の bios（生命、生物）と topos（場所、空間）とを語源とするドイツ語の合成語。日本では、環境復元で創造された生物空間を示す一般用語として用いられる場合が多く、学校ビオトープ・園庭ビオトープや地域の身近な環境を復元するための行政、市民などによるビオトープ創生が、全国的な広がりをみせている。

フードドライブ

家庭に眠っている食品を持ち寄り、必要とする人々に活用してもらうことで、食品ロスを減らす仕組み。

浮遊粒子状物質

大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径が10μm(マイクロメートル)以下の物質のことを指す。主な発生源としてディーゼル車からの排出ガス、焼却施設からのばい煙のほか、土ぼこりなどの自然物質も含まれる。細かい粒子は肺の奥まで吸引されるため呼吸器系疾患を引き起こし、特にディーゼル車の排出ガスはベンゾピレン等の発ガン性物質や花粉症への複合影響物質として注目されている。

ま行

モザイカルチャー

人・動物・風景などの形を金属フレームで作り、土を入れ植物を植え込んだ立体花壇のこと。モザイカルチャーは「モザイク」と「カルチャー」の造語。

ら行

緑被率

ある地域における樹林地・草地・農耕地・宅地内の緑(屋上緑化を含む)、街路樹などの緑で被われた土地の面積が、その地域全体の面積に占める割合。

わ行

ワットアワーメーター（家庭用電力消費量測定機器）

家庭用電化製品の電気使用量などを測定する小型の電力計。コンセントに接続されたワットアワーメーターに、電化製品をつなぐことで消費電力を測定・表示する。

A～Z行

VOC（揮発性有機化合物）

VOCは揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds)の略称で、工場だけでなく一般家庭やオフィスで使われる様々な製品に使用されて

いる。一部のスプレー缶、塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナー、ドライクリーニング溶剤など様々な製品に含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチル、テトラクロロエチレンなどの物質。PM2.5 や光化学スモッグの原因物質の 1 つとされているため、排出削減が求められている。